

プレゼン：3月10日 B会場 16:30～ 拠点間のサプライチェーン、つながる工場

対象業務の現状と取組み

標準I/Fを使った物流IoT構築によるグローバルサプライチェーンマネジメント実現

◆困りごと

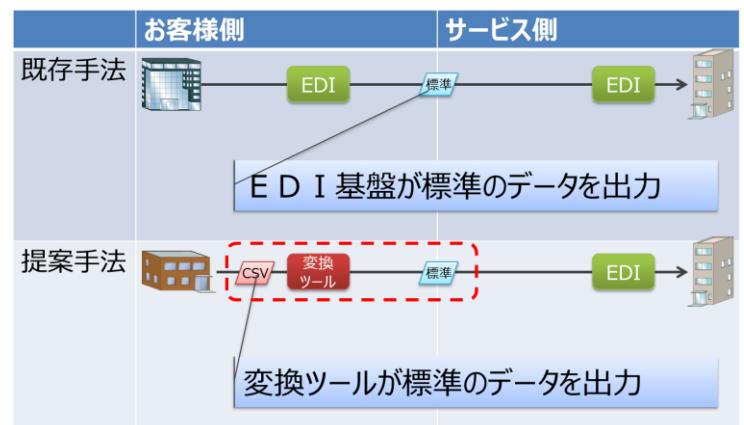
物流に関するトラブルや異常が発生した場合、部材などの輸送はフォワーダーに任せているため輸送中にアクシデントが発生すると対応が後手にまわり重大な生産ロスに発展していました。これは、サプライチェーンの情報が分断されていて、相互の物流情報が相互に共有されておらず、サプライチェーン全体を可視化できていないことが原因です。

◆取組み内容

垂直統合された企業グループは、サプライチェーン全体を可視化するために、海外工場やサプライヤなど各拠点の情報をEDI基盤の中で標準I/F(EDIFACT)データに変換してこれを各社固有の物流DBに集約しています。これを垂直統合されていない、ゆるやかなつながりを持った企業同士でも情報連携できるEDIFACT仕様と、そのベースとなるCSVデータ仕様をゆるやかな標準として定義し、垂直統合されていない物流会社のログ見える化サービスで可視化します。

実証実験・業務シナリオ（TO-BE）・成果

EDIFACTを使って、海外工場（発地側荷主）からの出荷情報（輸出書類情報など）を、実証実験向けに開発したCSV→EDIFACT変換コンポーネントを使って変換し、この情報を物流会社・船会社などのロジスティクス側のシステムに収集します。この情報を着地側荷主が必要なときにタイムリーに入手し、生産側の識別子と紐づけて、突然のアクシデントに素早く対応する実証実験に取り組めます。この実験によって、自社システムから簡単にEDIFACT形式のデータを生成し、生産と物流の情報連携が可能となることを実証します。



ファシリテータ

：古賀康隆（株）東芝

エディタ・メンバ

：織戸琢郎 日本精工（株）

：荒俣晋作 東芝ロジスティクス（株）